

# 幼児健康情報—幼稚園児保育児に対する 健康調査の試み

研究協力者 竹本 泰一郎(長崎大)

## 目 的

これまで体系的な観察の乏しかった就学前の幼児について、出生時の異常、既応歴と現在の体格、健康状態に至る一連の健康情報の収集を試みた。また、それら各事象の関連性についても若干の検討を試みた。

## 調 査 方 法

長崎県諫早市内の市立幼稚園(対象園児数、68人)および私立保育所(3ヶ所、75人)に通っている4~6才の男児79名、女児64名の計143名の幼児を対象とした。(表1)

昭和55年4月から12月にかけて市販(TMC株式会社)の質問紙を各幼児の母親に配布し記入してもらい保母及び医師が点検した。体格については昭和55年度初頭に測定したものを用了。この質問紙の有効性については未検討であるので、本報告ではなるべく原記載の資料から分析を行った。

## 調 査 結 果

(1)出生時の異常(表2):何らかの異常を出生時に経験した児は男13名、女12名の計25名であり、全児の17.5%に当たる。異常の種類としては、仮死出生、重度黄疸、酸素使用、保育器使用とも同等度であった。(2)既応症(表2):現在まで既応症のない児は42名、29.4%に過ぎず、男児の80%、女児の64%が何らかの傷病

を体験している。既応の疾病としては中耳炎(24.4%)が最も頻度が高く、次いで肺炎・気管支炎(22.4%)、事故(18.2%)であった。(3)現在の健康異常(表3):TMCのコンピューター診断によると現在何らの健康異常を認めないものは4.2%に過ぎない。最も高率なのは歯の異常(87.4%)であり、次いで耳鼻咽喉頭(46.7%)、アレルギー体質(19.6%)、虚弱(18.2%)、皮膚(16.1%)、眼(12.6%)などの異常が高率であった。(4)体格(表4):5才男児で身長 $108.4 \pm 5.0$  cm, 体重 $17.9 \pm 9.0$  kg, 同才女児で $107.2 \pm 4.6$  cm,  $17.4 \pm 1.7$  kg 6才男児でそれぞれ $110.5 \pm 4.7$  cm,  $18.5 \pm 2.1$  kg, 女児で $111.2 \pm 4.0$  cm,  $18.3 \pm 2.2$  kgであり、昭和53年度の全国平均値と比較してみると、身長、体重ともにやや劣っていた。幼稚園児と保育園との間にも身長、体重、ローレル指数とも有意な差異は存在していなかった。(5)出生時の異常と既応歴との関連(表5):出生時の異常を経験した25名での既応症数は1児当り1.04であり、無異常非経験児群での0.87に比してやや高値である。疾患別差異では肺炎・気管支炎における有経験児群で36%、非経験群での19.5%が最も顕著であった。(6)既応歴と現在の健康異常との関連(表6):現在の健康異常についての13項目において既応歴ありの児での有所見項目数は平均2.4であり、既応歴なし児での1.54項目に比して高かった。疾患種類別では虚弱体質、アレルギー

一、耳鼻咽喉系疾患では差異が顕著であったが、歯および眼の異常で両者間は差異が認められなかった。過去の健康状態が現在の健康状態に影響を与えていることは明らかであるが、既応、現症の連続性については更に吟味が必要である。(7)出生時異常、健康状態と体格：出生時の異常の有無と現在の体格との間には有意な関連は認められなかった。既応歴についても同様で、全体としても、既応歴の内容を疾病と外傷と分けての比較でも有意な差異は認められなかった。現在の健康状態との関連では虚弱体質と歯、眼の異常の有無児の間にt検定で有意な差が認められたが、その傾向については一定していない。

### ま と め

1) 5, 6才児の健康状態が出生の異常及びそ

表 1

対象幼児数		M.	F.	T.	
幼稚園児	5才	19	16	35	68人
	6才	12	21	33	
保育園児	4才	12	6	18	75人
	5才	28	19	47	
	6才	8	2	10	
		79	64	143	143人

れまでの罹病像と関わっていることが本年次の横断的かつretrospectiveな調査でも示唆された。

2) 体格と現在及び過去の健康状態との関連は今回のような少数例についての検討では明らかではなかった。3) 個々の児における健康状態の推移については自記式の質問紙という調査方法の限界もあり、必ずしも充分ではなかった。

### 次年度以後の計画

1) 対象児の数を増やすとともに、乳児健診、3才児健診、就学時健診との関連について検討する。

2) 母親についての自記式質問紙からの評価のみでなく、保母、園医の評価を包含し、健康情報の精度について検討する。

表 2 出生時の異常

	男	女	計
仮死出生	3	3	6
重度黄疸	2	4	6
酸素使用	5	0	5
保育器使用	3	3	6
その他	0	2	2
計	13	12	25

### 既応症

中 耳 炎	35 (24.4%)
肺炎・気管支炎	32 (22.4%)
事 故	26 (18.2%)
ぜ ん そ く	7 (4.9%)
重 い 下 痢	2 (1.4%)
へ ル ニ ア	2 (1.4%)
外 科 手 術	3 (2.1%)
腎炎・ネフローゼ	1 (0.7%)
そ の 他	13 (9.1%)

表3 現在の健康状態

	男	女	計
虚弱体質	14 (17.7%)	12 (18.8%)	26 (18.2%)
アレルギー	18 (22.8%)	10 (15.6%)	28 (19.6%)
歯	69 (87.3%)	56 (87.5%)	125 (87.4%)
消化器	6 (7.6%)	1 (1.6%)	7 (4.9%)
呼吸器	3 (3.8%)	2 (3.2%)	5 (3.5%)
循環器	2 (2.5%)		2 (1.4%)
腎・泌尿器	1 (1.3%)	1 (1.6%)	2 (1.4%)
皮膚	15 (19.0%)	8 (12.5%)	23 (16.1%)
眼	14 (17.7%)	4 (6.3%)	18 (12.6%)
耳鼻咽喉	42 (53.2%)	25 (39.1%)	67 (46.9%)
ビタミン欠乏	10 (12.7%)	4 (6.3%)	14 (9.8%)

表4 体格

	身長(cm)	体重(kg)	ローレル
4才	101.7 ± 4.9	15.8 ± 1.4	150.3 ± 12.1
男 5才	108.4 ± 5.0	17.9 ± 9.0	140.3 ± 11.8
6才	110.5 ± 4.7	18.5 ± 2.1	137.2 ± 11.0
4才	104.3 ± 5.7	16.3 ± 2.3	143.3 ± 9.7
女 5才	107.2 ± 4.6	17.4 ± 1.7	141.6 ± 11.7
6才	111.2 ± 4.0	18.3 ± 2.2	132.9 ± 13.0

表5 出生時の異常と既往歴との関連

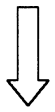
	出生時の異常	
	あり	なし
児数	118 (100%)	25 (100%)
中耳炎	28 (24%)	7 (28%)
腎炎・ネフローゼ	1 (1%)	
既往歴		
ぜんそく	6 (5%)	1 (4%)
肺炎・気管支炎	23 (20%)	9 (36%)
重い下痢	2 (2%)	
ヘルニア	2 (2%)	
外科手術	2 (2%)	1 (4%)
事故	26 (22%)	5 (20%)
その他	10 (9%)	3 (12%)

表6 既往歴と現在の健康状態

	既往歴	
	あり	なし
児数	101 (100%)	42 (100%)
児数	22 (24%)	4 (10%)
現在の健康状態		
虚弱体質	90 (89%)	35 (83%)
アレルギー体質	24 (24%)	4 (10%)
消化器	7 (7%)	1 (2%)
腎・泌尿器	2 (5%)	
皮膚	19 (19%)	4 (10%)
眼	13 (13%)	5 (12%)
耳鼻咽喉	60 (59%)	7 (17%)
ビタミン欠乏	11 (11%)	3 (7%)



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



#### 目的

これまで体系的な観察の乏しかった就学前の幼児について,出生時の異常,既応歴と現在の体格,健康状態に至る一連の健康情報の収集を試みた。また,それら各事象の関連性についても若干の検討を試みた。